



猪高の森自然観察だより 2026・3月号

開催日時：2026年3月22日（日）

テーマ：五感を使って春を楽しもう！

天候：晴れのち曇り 気温：最低 3.4℃、最高 17.1℃
(名古屋に於いて)

参加者：19名（内 NACS-J 会員 4名）

コース：森の集会所 → 井堀の大楠 → 井堀の棚田 → ハンノキ湿地 → こもれば広場
→ シダレザクラの里 → 塚ノ杵池堤体 → 森の集会所

(左上の画像はテンダイウヤクの花、2月号で紹介)

2月の下旬からようやく雨が定期的に降るようになりつつあります。産卵や開花など遅れていた生き物たちの活動も徐々にですが、始まっています。

塚ノ杵池の水位や棚田の水も回復することを期待しています。

○ヒイラギナンテンの花で振動傾性(しんどうけいせい)を体験！



振動傾性(震動傾性とも書く)とは「植物が風や振動などの外界からの刺激によって、その刺激の方向に関係なく、一定の方向に曲がる性質」のことを言い、オジギソウが葉を閉じる動きが代表的な例としてよく挙げられます。

ヒイラギナンテンの花の雄しべがこの性質を持っていますので、参加者のみなさんに体験して頂きました。曲がった雄しべは、しばらくたつと元に戻りますが、この動きは、蜜を吸いに来た虫たちの体に花粉を付け、運んでもらう為に獲得した性質とされています。

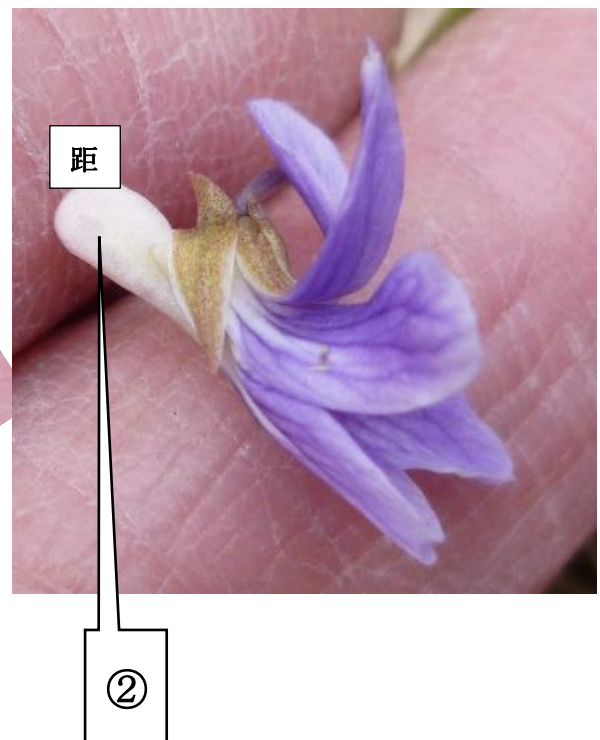
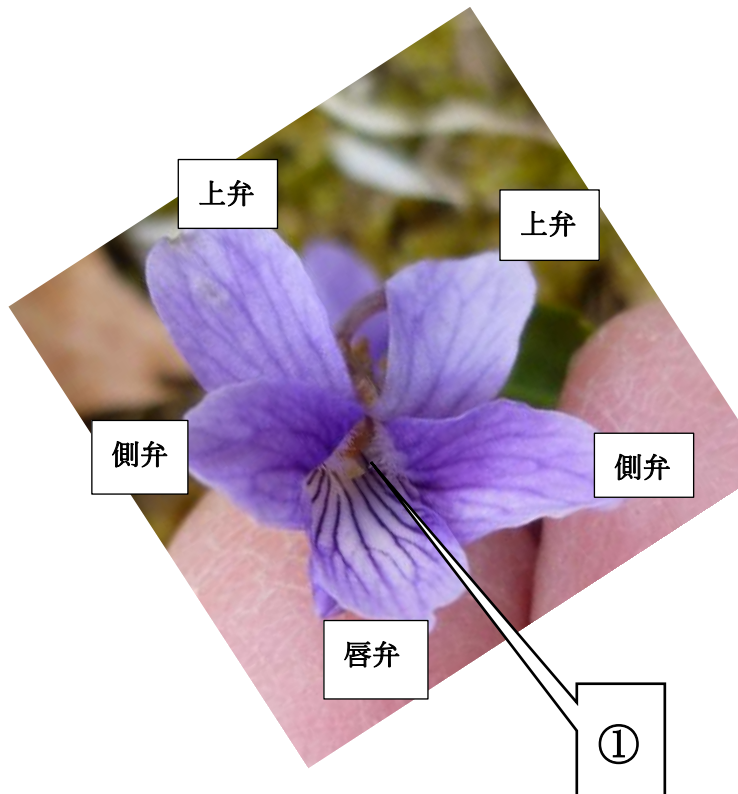
この雄しべの
根元を触って
見ると

内側に
曲がる



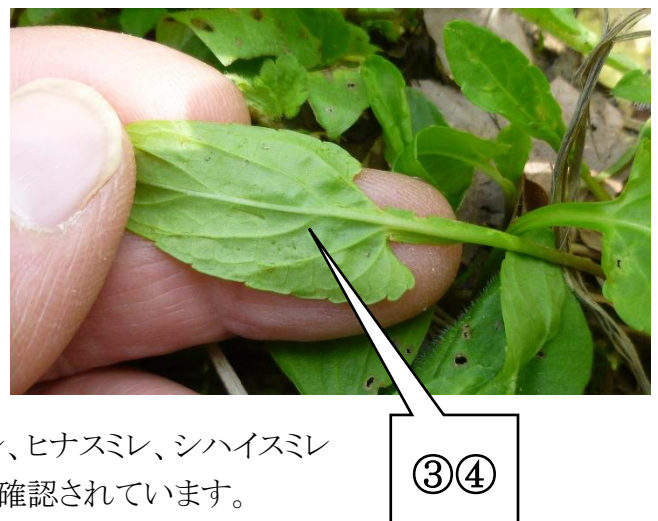
この振動傾性は、園芸植物のポーチュラカやヤグルマギク、アザミ、食虫植物のハエトリグサなども花や葉の動きなどに見られるとのことですので、調べてみるのも良いでしょう。

○スミレの仲間を同定してみましょう



同定の方法

- ① 側弁の奥に、毛が生えているかいないか
- ② 距(きょ)の色と太さ
- ③ 葉の裏側の色
- ④ 葉の全体の形
- ⑤ 全体の姿と特徴
- ⑥ 生えていた環境



などを調べ参考にして決めます。

猪高緑地では、ニオイタチツボスミレ、マキノスミレ、ヒナスミレ、シハイスミレ、フモトスミレ、アリアケスミレ、ニョイスミレなどが近年確認されています。

https://www.plantsindex.com/plantsindex/html/group/gp_viola_violacea.htm

https://www.plantsindex.com/plantsindex/html/group/gp_viola_grypoceras_basic.htm

https://www.plantsindex.com/plantsindex/html/group/gp_viola_verecunda.htm

https://www.plantsindex.com/plantsindex/html/group/gp_viola_sieboldi.htm

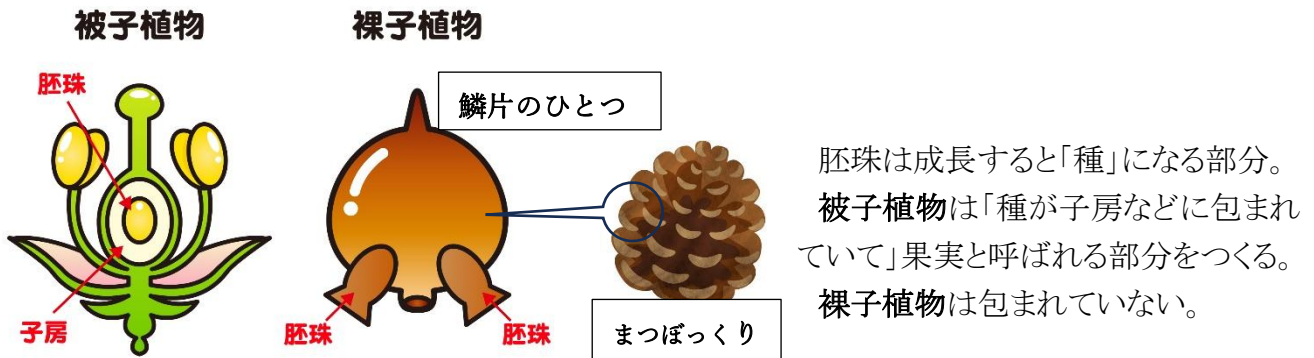
https://www.plantsindex.com/plantsindex/html/group/gp_viola_patrinii.htm

などを元に同定しましたのでご紹介しておきます。

スミレの仲間は1年でこの時期にしか咲きません。大事に観察したいと思っています。

○イチョウの話 その2(先月号の続き)

<イチョウは何故、裸子植物の仲間に入っているのでしょうか>



イチョウの祖先が生まれたのは、2億5千万年以上前のことで、古生代と呼ばれる時代です。サクラやマツもまだ生まれていませんし、恐竜よりももっと古い時代の植物の世界のことです。

その頃の樹で今もまだ生き残っている仲間はソテツだけで、その他の仲間たちは皆滅んでしまいました。

シダ植物は、精子を作って受精しますが、イチョウとソテツだけは、樹木の中で花粉から精子が生じ受精するという古い形を受け継いでいます。

さてここで、問題はなぜ「裸子植物」なのか？ということですね。裸子植物とは、「種が裸で撒かれる植物」の事です。

イチョウの実の外側のちょっと臭う柔らかい部分は、種の外側の皮の部分が肥大したもので、リンゴやミカンの私たちが食べる部分とは、元となる部分が異なるのです。

イチョウの実と申しましたが、正確には「イチョウの種」と表現するのが、正しい言い方になります。

銀杏(ぎんなん)として私たちが食べている部分は「胚乳」と呼ばれる、種が発芽するのに必要な栄養の部分です。

○「短枝」と「長枝」ってどういう枝？

よく図鑑などに載っている「短枝」と「長枝」ってどんな枝の事でしょうね。

「短枝」:木の節(葉が生えていたところ)と節の間が極端に短くなっている枝の事。

「長枝」:節と節の間(節間:せつかん)が長い枝の事。



樹は、永久に大きくなり続けることは出来ません。樹種にもよりますがある程度大きくなると、短枝を出し、枝先に輪生状に葉を出すことで、必要な葉の量を確保することが多くなってきます。

つまり、枝を伸ばすエネルギーをなるべく少なくして、樹体の維持に力の中心を振り分けるようにしていると考えられています。

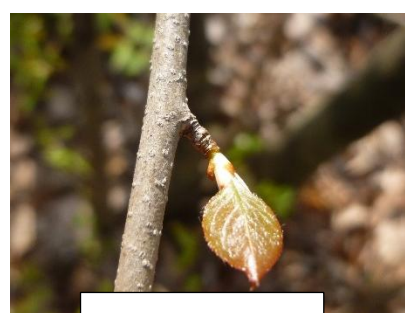
「短枝がよく見られる事」がその樹の特徴とされている場合が良くありますので、似た樹との見分ける時のポイントとなります。



アオハダの短枝



タカノツメの短枝



カマツカの短枝

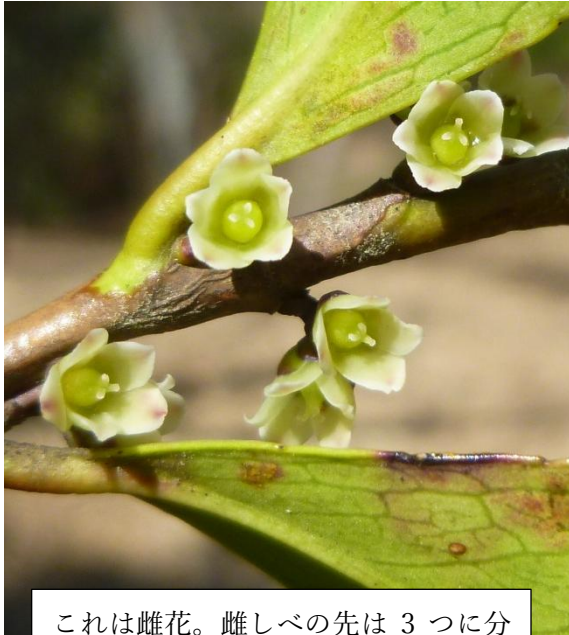
葉の出ていない冬芽の状態の時は、どれも似た感じの枝になっているようです。

短枝は、枝を伸ばさない代わりに(?)に花芽が付きやすい模様ですので、枝によって役割分担しているのかもしれませんが。

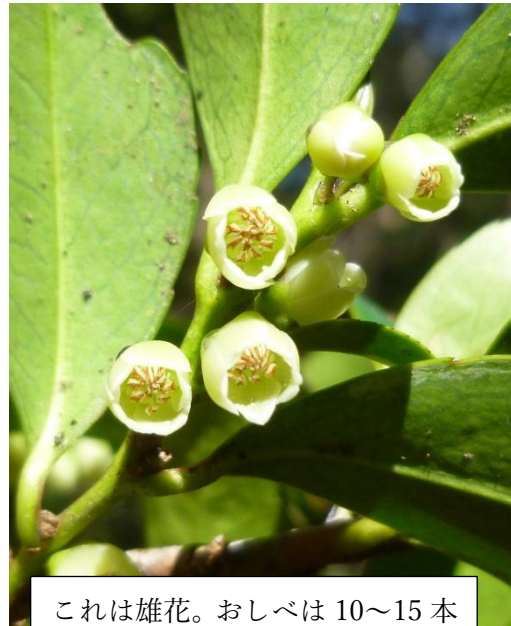
○ヒサカキの株はいろいろでした。

この時期に森の中を歩いていると、都市ガスのような匂いに出会うことがあります。ヒサカキの花の匂いです。ヒサカキは日本の森で良く出会う木の代表的な種類のひとつで、地域により神棚にも添えられて使われています。

解説を調べていくと、雌雄異株でそれぞれ雌花、雄花をつける株の2種類と不完全な雌しべの付いた両性花もあり3種ある、との二つの説明があり、確かめてみました。



これは雌花。雌しべの先は 3 つに分かれる



これは雄花。おしべは 10~15 本あるとされる

両性花も見つかったのですが、なんと一株に「雄花」「雌花」「両性花」の3種類を付けている株があり、参加の皆さんと共にビックリ！でした。

性転換しやすい樹として研究された論文もあり、身近な樹ながら奥の深い部分があります。

○真ん中に穴の開いた切り株がありました。



切り株の中心が腐っている様子です。

樹の中心部は「芯材(心材:しんざい)」と呼ばれ、活動をしていない細胞から成り、樹体を支える私たちの「骨」の役割をしている部分です。

この部分が大きく腐ると強い風が吹いたときや斜めに生えていた時などに支える事ができなくなり、樹が折れたり倒れやすくなったりします。

以前、葉を元気に茂らせていた街路樹が突然倒れる現象が見られ、ニュースになったことをご記憶でしょうか？

水や養分を運ぶ組織は「辺材」と呼ばれ、

芯材の周りにあるため、一見元気に見えるように見えてしまいますが、この骨にあたる芯材を侵すキノコの仲間があります。「ベッコウタケ」や「コフキササルノコシカケ」がそうです。

キノコは菌類の「子実体(しじつたい)」と呼ばれる部分で、一般の植物の「花」や「実」にあたる

部分になります。生えてしまったら、その樹はもう菌糸に侵されてしまっていることになり、助かりません。

身近な樹にキノコが生えていたら要注意です。特に根元に近い部分にオレンジ色の小さいキノコがあったら、それはベッコウタケの幼菌かもしれません。怖い話になってしまいました。

○3月の下見及び定例会などで観られた生き物たち(順不同、園芸種・植栽種含む)

・木の花

ヒラギナンテン、ツバキ、ユキヤナギ、カワヅザクラ、ヒサカキ、シナレギョウ、シダレザクラコブシ、ミツバアケビ、キブシ、アオキ、ヤマモモ、シロバナウグイスカグラ、テンダイウヤク、ウスノキ



ウスノキの花

・草の花

オオイヌノフグリ、タネツケバナ、ミチタネツケバナ、ニオイタチツボスミレ、シハイスミレ、マキノスミレ、ヒナスミレ、フモトスミレ、アリアケスミレ、キュウリグサ、ナズナ、ハナニラ、スイセン(数種)、バイモ、ショカツサイ、ミドリハコベ、コハコベ、ヒメオドリコソウ、スズメノカタビラ、ニホンタンポポ、セイヨウタンポポ、スノーフレーク、カラスノエンドウ、カスマグサ、ノミノフスマ、スズメノヤリ、ホトケノザ、オオジシバリ、オランダミミナグサ、シロバナマンテマ、シラユキゲシ、キランソウ

・鳥(○は声のみ)

ウグイス(○)、ハシボソガラス、ハシブトガラス、スズメ、トラツグミ、ヒヨドリ、コゲラ(○)、ヒタキの仲間(○)、ダイサギ、コジュケイ?、ケリ、アオゲラ?(○)、シジュウカラ、メジロ、カルガモ、コサギ、シロハラ(○)

・その他

ミシシippアカミミガメ、オオカマキリ(卵鞘)、チョウセンカマキリ(卵鞘)、ヨモギワタフシ、ウシガエル(オタマジャクシ)、ハスオビエダシヤク、シヤクガの仲間、キタキチョウ、テングチョウ、ビロードツリアブ、ナナホシテントウ、ルリタテハ、ヒメエグリバ(幼虫)



ビロードツリアブ

次回観察会は4月26日(日)森の集会所集合 9:30~です。

(雷ナウキャストにて雷発生の危険のある場合は中止)
名東自然倶楽部のHPでは毎月の猪高の森の自然観察会の紹介をしています。

<https://sizen.ciao.jp/index.html> からご覧になってください。

(右上の自然観察グループをクリックしてください)



シダレザクラの里のコブシの花

ヒヨドリが落とした花を食べてみるとスパイシーな味がしました。